

会誌Bでーサ 新入生諸君へ!!

本誌 編集者 高橋 郁夫 広島大学体育会第28代幹事長

新入生諸君、入学おめでとう。先輩として心から祝する。

これから君たちの大学生活を最大限に活かすために、ぜひ、この広島大学体育会を利用してもらいたい。

現在、広島大学体育会に所属している団体は、39の部に愛好会3を含めると42を数える。もちろんその中の自分の気に入ったクラブに入部し、己れを鍛え、汗と涙を流すのもよいだろう。我が体育会のクラブには全国優勝の経験をもつ部も数部ある。全国を相手に自分の青春をかけ、その身を燃やすのもよいだろう。しかし、新入生全員が体育会系のクラブに入部するとは思えない。でもそういうクラブに入部しない人達にも、ぜひ、体育会に入会し、会員となって、どしどし体育会を活かしてもらいたい。

皆さんは、体育会という言葉からどういうイメージを想像するだろうか。おそらく、単に運動部の集まった団体であり、自分には関係のない組織であると思う人が大半であろう。しかし、こうしたイメージに対して、我々体育会は「いいえ、違います。」と断言する。たしかに、体育会は、体育系のクラブによって成り立っているが、学長を会長とする全学組織であり、その活動は多種多様である。

大学を語るうえで課外活動は欠かすことができないものであり、また、大学が単に知識吸収、研究の場というだけでなく、人間形成の場であり続ける限り、課外活動の重要性は、決して失われるものではないからである。こ

う考えたとき必要となるのが、その場所を提供する全学的規模の組織なのである。

しかし、広島大学は、設立当時からキャンパスが分散しており、それらを統括する全学組織はなかったのである。このことは単に課外活動だけでなく、広島大学にとっても、その発展という点でマイナス要素となるものであった。

こうした状況において、昭和38年、全学生を対象とする全学組織として、広島大学最高決定機関である評議会において承認されたのが体育会なのである。したがって、広島大学体育会は、運動部の集合体という性格だけでなく、その組織は、自治会、学友会といわれる組織に似た面を持っているのである。そして、その活動は、新入生を対象として行われる「オリエンテーションキャンプ」や12月の第1日曜日に行われ、学内学外を問わず大勢の参加者でにぎわう「フェニックス駅伝」、また、各運動部が企画・運営する「学内ソフトボール大会」等の各種スポーツ大会があり多種多彩なものである。

また、体育会の窓口では、ソフトボールセット、スキー用品、各種スポーツ用品の貸出も行っており、体育会の会員証を持っていれば割引をしてくれる特約店もたくさんある。

体育系のクラブに入部しなくても、ぜひ、広島大学体育会に入会し、これから始まる大学生活を、より有意義なものとするため我々とともに汗を流し、青春について、大学生活について語り合おうではないか。